

## ゴムの劣化に及ぼす各種要因とその防止対策

主 催：日本ゴム協会研究部会 環境劣化研究分科会

協 賛：高分子学会、自動車技術会、石油学会、繊維学会、日本化学会、日本機械学会、日本合成樹脂  
(予定) 技術協会、日本材料学会、日本接着学会、日本トライボロジー学会、日本レオロジー学会、日  
本複合材料学会、プラスチック成形加工学会、マテリアルライフ学会 (順不同)

自動車・インフラ・各種工業製品から、医療・レジャー・日用品に至る広範な用途で使用されるゴム製  
品は、様々な環境条件で使用されるため、その劣化機構は複雑です。ゴム製品の信頼性や耐久性を高める  
ためには、ゴムの劣化メカニズムを解析し、劣化要因を把握するとともに、適正な配合処方やゴム薬品の  
選定、また成型加工条件の最適化が不可欠になります。本シンポジウムでは、各分野の専門家による分か  
りやすい講義により、劣化の基礎から応用まで幅広い知識を習得する事ができます。

日 時：2020年1月31日(金) 9:30~16:50

場 所：東京電業会館・地下ホール <http://www.todenkyo.or.jp/access/> (東京都港区元赤坂 1-7-8)

受 講 料：日本ゴム協会会員・協賛団体会員 24,200 円、 日本ゴム協会学生会員 5,500 円

受講者が日本ゴム協会の正会員でない場合でも、ご所属が法人としてゴム協会会員(賛助会員)  
の場合は2名まで会員扱いの受講料でご受講いただけます。

シニア制度対象会員 12,100 円 (60歳以上の正会員)、 会員外 33,000 円

受講料には消費税・テキスト代を含みます。

申込方法：弊会ホームページ <http://www.srij.or.jp/> よりお申込みください (定員 90 名)。

テキスト：当日、受付にてテキストをお渡しいたします。また、テキストは会期約1週間前から期間限定  
で弊会ホームページに掲載し、閲覧用PWをお知らせいたします。テキスト配付に相当いたし  
ます閲覧用PW通知後のキャンセルはお受けいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

送金方法：銀行振込 (三井住友銀行 日比谷支店 普通No.7100847 一般社団法人日本ゴム協会)。

振込み手数料は受講者側でご負担ください。一度ご入金された受講料は返金いたしかねますの  
のであらかじめご了承ください。

お問合せ先：一般社団法人日本ゴム協会 第265回ゴム技術シンポジウム係

(〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル 1 階)

TEL : 03-3401-2957 FAX : 03-3401-4143 E-mail : [kenkyuubukai@srij.or.jp](mailto:kenkyuubukai@srij.or.jp)

9:30~9:40 開会のあいさつ

環境劣化研究分科会主査 (株)デンカ 藤井 信彦

【座長】(一財)化学物質評価研究機構 渡邊 智子

9:40~10:35 耐熱老化性と耐疲労劣化性が両立する配合処方

元・大内新興化学工業(株) 太智 重光 氏

二律背反の関係にある耐熱老化性と耐疲労劣化性が両立する加硫用薬剤あるいは老化防止剤の配合処方と想定される  
作用機構について紹介する。

10:40~11:35 ゴムの表面劣化解析

キヤノン(株) 加藤 久雄 氏

機器分析を用いて、ゴム製品の表面劣化を分析する手法を紹介する。

【座長】早稲田大学 伊藤 政幸

12:35~13:30 (講師調整中)

13:35~14:30 脱タンパク質化天然ゴムの調製と熱劣化

東京工業高等専門学校 山本 祥正 氏

尿素と界面活性剤を用いた天然ゴムの脱タンパク質化と熱劣化について紹介する。

【座長】(公財)鉄道総合技術研究所 伊藤 幹彌

14:45~15:40 成形加工と劣化(仮題)

(一財)化学物質評価研究機構 近藤 寛朗 氏

15:45~16:40 海洋投棄プラスチック調査の矛盾点とゴム・プラスチックの矛盾点とリサイクルと生分解性

長岡技術科学大学 大武 義人 氏

海洋投棄プラスチック調査のほとんどが劣化を基軸とした調査は実施されていない。また対策も単にプラスチック使用  
削減を促すのみで具体的手法は完全に抜けている。本講演はこれらの矛盾点を最新の研究論文より具体的に示すのと同  
時に海洋浮遊プラスチックの化学物質の吸着性と対策について記す。

16:40~16:50 閉会のあいさつ

環境劣化研究分科会副主査 伊藤 幹彌

※プログラムは一部変更になる場合がございます。

☆お申込みはホームページ <http://www.srij.or.jp/> からお願いします。